2021年家庭内暴力防止法の一部である片親疎外に関する説明書

説明の制作者

国際機関の大規模なネットワークを代表する専門家のコンソーシアム（下記参照）。

2021年8月18日

1. 背景

1.1 2021年(英国)家庭内暴力法は、イングランド国内のすべての市民を保護することを目的とした画期的な法律である。

1.2 重要なのは、この法律が子どもたちを自らの権利において被害者として認識し、その虐待がどのように現れるかにかかわらず、強制的な支配から子どもたちを守ることがいかに重要であるかを強調していることです。

1.3 ガイダンス草案は、2021年（英国)家庭内暴力法第84条に基づいて発行され、中央家庭裁判所と子どもの問題に関連する判決にとって重要なガイダンスとなる基準を設定し、最良の実践を促進するために作成されました。

1.4 ガイダンス案では、子どもが片方の親から疎外されることは、被害者である親とその子どもにとって虐待であると認識しています。これは大きな前進であり、私たちは大臣がこのような賢明な内容を盛り込んだことに心より感謝する。以下の通りである。

第57節

- 「パートナー、配偶者、親としての被害者の役割を意図的に損ねること」。
- 「被害者をコントロールするために子どもを利用すること、例えば、子どもを連れ去ると脅したり、子どもが被害者と接触することを妨げたり、子どもの社会的養護に関与するリスクを高めるために専門家を操作すること」。
- 「疎外的な行動[1]、つまり 一方の親が他方の親についての否定的な見解を子どもに吹き込むことや、一方の親が子どもと他方の親との接触を、その子どもへのリスクを懸念した理由以外で、挫折させたり制限しようとすることなど。」

第60節：感情的または心理的な虐待

- 「もう一方の親が自分を捨てた、愛していなかった、欲しがっていなかったと、正当な理由なく子どもに虚偽のことを言うなど、子どもや友人を被害者に反感を抱かせること（子どもにその後の影響を与える可能性がある）」。
- 「被害者である親についての子どもの記憶を歪めること（事実ではないのに、もう一方の親が迎えに来てくれる/会ってくれると子どもに言うことを含む）」「もう一方の親に情報が提供されないように、子どもの単独親権を持っていると医療/学校のスタッフに偽って言うこと」 「もう一方の親の人格

[1] 疎外行動（「片親阻害；parental alienation」または「片親阻害態度；parental alienating behaviours」と呼ばれることもあります）の定義は統一されていませんが、CAFCASS（Children and Family Courts Advisory and Support Service）では、一方の親に対する子どもの抵抗や敵意が正当化されず、他方の親による心理的な操作の結果である場合を「片親阻害；parental alienation」と定義しています。

的特徴、仕事、友人、家族を馬鹿にしたり、（子どもの前で含む）軽蔑することを含む、子どもに否定的なイメージを与えること」

第78節：経済的虐待

- 「意図的に被害者に家庭裁判所への出廷を強要し、追加の弁護士費用を発生させる。」

1.5 残念ながら、ロンドン被害者委員会とアドリアン・バーネット博士の両名は、片親疎外の現実を歪め、この問題に対するかなりの量の科学的裏付けについて言及しない提出書を作成しました。このような歪曲や省略は、多くの国会議員や政府関係者、そして一般市民に誤解を与えている。その際、子供の福祉に責任を持つ主要な公的機関であるCAFCASS（Children and Family Court Advisory and Support Service）のエビデンスに基づく最新の政策と実践を無視している。CAFCASSは、公共機関として、片親疎外的な行動が子どもと親の関係に深刻な影響を与えるという証拠をすでに検討し、受け入れていますが、これは「片親疎外」と呼ばれています。したがって、ロンドン被害者委員会とバーネット博士は、現在受け入れられている実状に真っ向から矛盾しています。

1.6 この短い説明書面は、多くの専門的・科学的分野の国際的な専門家を含む何千人ものメンバーを代表する大規模な組織のネットワーク（その多くは英国出身）によって作成されたもので、アドリアン・バーネット博士とロンドン被害者委員会が提出した議論は、家庭内暴力というトピックにおいてジェンダーに偏った立場を示していることを指摘しています。彼らの資料に掲載されている意見は、片親疎外についての誤った情報に依存しており、片親疎外が存在しない、科学的根拠がない、虐待する父親に組織的に利用されているという彼らの提案は根拠がありません。根拠のある申し立てもありますが、家庭内暴力の虚偽申し立てもよくあることです。私たちは、すべての被害者とすべての子どもたちが虐待から守られることを望んでいます。

1.7 この書面では、片親疎外とは何か、なぜ片親疎外が家庭内虐待と子どもの心理的虐待の両方の形態であるのかについても説明します。

2. 概要

2.1 片親疎外とは、「子どもの一方の親に対する抵抗感や敵意が正当化されず、主に（他方の親による様々な虐待行動を通じた）心理的操作の結果である」という結果を指します。片親疎外につながる態度は、"片親疎外態度 "と呼ばれています。

2.2 片親疎外態度は、子どもの心理的虐待と家庭内虐待の両方であり、後者は明らかに強制的で支配的な行動である。父親も母親も、他の家族と同様に、片親疎外の加害者にも被害者にもなりやすく、*常に*子どもが被害者です。他の形態の虐待と同様に、片親疎外は区別するものではありません。

2.3 疎外行動には様々なものがありますが、親同士の争いや障害、別居後に両親の一方または両方が健全な方法で家族を再構築する努力ができないことなどを背景に、他の形態の家庭内虐待と同時に発生することがあります。

2.4 バーネット博士のような論者による片親疎外に関するいくつかの著作は、欠陥があり、偏っていて、片親疎外の犠牲者である母親、父親、祖父母、子どもたち、彼らを認識し、支援することに反対しています。これらの著作は、家族暴力というテーマに、この問題に関する大半の研究では支持されていないジェンダーバイアスを適用しています。

3. 片親疎外態度

3.1 片親疎外態度とは、ドメスティック・バイオレンスの学者が何十年も前から記録してきた一連の虐待行動を指す記述的な用語で、特に子供をもう一方の親に対する武器として使うことに関連しています。親の疎外行動は、子供に、安全で愛情深いもう一方の親が自分を愛していなかった、危険だ、見捨てられたと思わせる役割を果たします。

3.2 片親疎外の学者は、武器として使われている子どもにどのような影響を与えるかに関心があるため、これらの強制的にコントロールする行動を片親疎外行動と呼び直しました。言い換えれば、片親疎外行動と強制的に支配する行動は、まったく同じことを表す2つの用語です。

3.3 片親疎外は、片親疎外の犠牲になっている子どもと疎外されている親（ターゲットにされている親や犠牲になっている親と呼ばれることもあります）の両方に影響を与え、さらにその家族やコミュニティにも影響を与えます。

3.4 疎外態度は、疎外している親がその結果を知らないという意味で、意図的でない場合もあります。その行動が意図的か無意識的かにかかわらず、子どもへの心理的な害は同じです。このような行動が確認された場合、それを認識し、改善しなければなりません。

3.5 両親は、子どもの健全な成長に責任があります。これには、子どもと両親およびその親戚との頻繁な定期的な接触を含む、適切な愛情関係を促進することが含まれます。片親疎外は、親との自然で健全な絆や関係を妨げるという点で、子どもの心理的な発達に悪影響を及ぼします。

3.6 片親疎外は通常、両親が別居や離婚をしている場合に発症し、子どもは主に親の影響を受けて、正当な理由なく、もう一方の親（「疎外された親」）とのかつての健全な関係を拒絶します。

3.7. 両親の一方の虐待行為が極端で、子どもとの関係を完全に断ち切ることが正当化されるケースもありますが、このようなケースは珍しく、"parental estrangement "と呼ばれる別の形態の家族紛争です。片親疎外は、正当化できない理由による拒絶のみを指します。

3.8 片親疎外行動が子どもの心理社会的発達に与える影響は大きい。両親のどちらかが悪い人、暴力的な人、価値のない人だと信じ込まされ、規範的な子育てを見てこなかった疎外された子どもは、子どもの一部であるその親の否定を内在化したことで、自分自身が何らかの意味で価値のない人間だと考えるかもしれません。このような内在化は、将来のパートナーや子どもとの関係や絆を築くことを困難にし、不安や抑うつ、自殺願望、信頼問題などの長期的な悪影響につながる可能性があります。

3.9 また、家庭裁判所での別居後の手続きにおいて、家庭内暴力や片親疎外の虚偽の申し立てが行われることがあることにも注意が必要です。それぞれの申し立ては裁判所によって慎重に吟味されなければならない。同一家庭内で、片親疎外による心理的虐待と身体的・性的虐待の両方が存在することもあります（「ハイブリッドケース」と呼ばれます）。男性と女性のどちらが虚偽の申し立てをしやすいのか、裁判所が組織的に母親よりも父親を優先するのか、あるいはその逆なのか、ある種類の虐待の申し立てが他の種類の虐待の申し立てよりも優先されるのか、信頼できる科学的な証拠はありません（裁判所の決定が間違っていると考える親による逸話とは対照的です）。まれに、子どもへの虐待が非常にひどく、子どもと加害者との間にいかなる形の接触も許されない場合がありますが、虐待の申し立てをしただけで、いかなる種類の接触も許されないというのは理不尽なことです。

4. 片親疎外態度とその影響

4.1 「片親疎外態度」についてさらに説明することは、関連性があり有益である。これらの態度（行動）は、性別に関係なく、何十年もの間、世界中のメンタルヘルスの専門家、家族法の裁判官や弁護士によって観察されてきました。この現象に関する科学的な記述的、質的、量的研究は、査読付き出版物に掲載された数百の論文、本の章、その他の作品があります。

4.2 したがって、片親疎外態度は、以下の両方である。

- そのプロセスの家族内での観察可能で測定可能な証拠（したがって、片親疎外が存在することの証拠であり、どのような記述的用語を使用したい場合でも）。

- 子どもを武器にして、子どもに精神的・心理的なダメージを与える原因であり、家庭内虐待・家族暴力・児童虐待の一形態である。

4.3 定期的に親の対立にさらされている子どもは、感情的・心理的な被害を受ける可能性が高い。両親が別居しているからといって、被害の影響が小さくなるわけではありません。子どもの成長に悪影響を及ぼすのは、あからさまな暴力や攻撃的な行動だけではありません。頻繁に、激しく、解決されない両親間の敵意や対立も悪影響を及ぼし、子どもに有害なストレスを与え、それが時間の経過とともに心理的な障害や精神疾患として現れます。これは、子ども時代の有害事象（Adverse Childhood Event: ACE）であり、公衆衛生上、非常に重要な問題です。子どもが親と接触しない期間が長ければ長いほど、そのダメージは大きくなります。つまり、子どもと親の接触を妨害しているという申し立てには、悪化を防ぐために迅速に対処しなければなりません。

片親疎外を児童虐待や家庭内虐待と認識し定義し続けることで、裁判所や児童福祉当局は、直ちに介入するために必要な権限を得ることができます。

4.4 疎外態度の範囲は、親だけでなく、家族の一員、特に祖父母を拒絶することも多く、子どもをどちらかの親に合わせ、もう一方の親を拒絶するという三角関係も含まれます。子どもへの虐待、親とその家族への虐待は、時には異なる種類の行動パターンで構成されています。以下はその一例です。

- 疎外された親の行動について、子どもに虚偽の話をしたり、子どもの記憶を歪めたりして、誤った物語を作る。

- 根拠なく子どもに対して疎外された親を常に否定的に描いている。
- 疎外された親を傷つけるために、第三者に虚偽の情報を提供すること。
- 疎外された親が迎えに来ると子どもに伝え、それが事実でないことを知りながら、子どもに来ない親を何時間も待たせること。
- 例えば、疎外された親を「選んだら、もう自分を愛してくれない」と子どもに言うなど、子どもに自分への忠誠心を感じさせるよう圧力をかける。
- 疎外された親を拒絶したり、疎外された親に反抗的、暴力的、破壊的な態度をとるように子どもに圧力をかけたり、報償を与えたり、疎外された親の意向に従わない子どもに制裁を与えたりすること。
- 疎外された親について否定的なことや虚偽のことを児童保護報告者や当局に言ったり書いたりするように子どもを指導したり強要したりすること。
- 子どもを親友のように扱い、気が動転しているときには子どもに慰めを求め、子どもをコミュニケーターや調停者として真ん中に置き、子どもを法的手続きの詳細にさらすこと（ParentificationまたはAdultification）。
- 些細な問題や認識されている問題を理由に、子どもが親との接触を拒否することを許すこと。

4.5 片親疎外が疎外された親に与える影響には以下のようなものがあります。
- 子どもと意味のある関係を持つことが許されなくなり、二度と会うことができないのではないかという恐怖が、急性の心理的・精神的被害をもたらします。
- 望まない拒絶をされ、子供が親に反感を持ち、愛情を感じなくなることによる心理的ダメージ。
-「拒絶された」親として認識されることによる社会的烙印。
- 不安や抑うつの増加 ；深刻なケースでは、疎外された親が自ら命を絶ったり、命を絶とうとしたりすることも知られています。
- 接触を維持するために, 片親疎外が起こっていることを証明するために、継続的な法的救済措置を求めなければならないという経済的負担。
- 曖昧な喪失感に起因する、仕事や学業でのパフォーマンスの低下、私生活や人間関係の崩壊。

5. 片親阻害とその他の家族間の葛藤

5.1 子どもが親との接触に抵抗する理由はいくつかあります。この抵抗の性質と、家族関係における他の要因が、抵抗の理由を決定するのに役立ちます。

5.2 中等度から重度の親離れをしている子どもは、頻繁に、持続的に、一貫して親を拒絶し、親とのコミュニケーションや会うことを拒否します。軽度の場合、このような抵抗は、子供が疎外している親と一緒にいるときに最もよく見られ、疎外されている親が世話をしているときにはあまり見られません。時間が経つにつれ、また片親疎外が重くなるにつれ、子どもの抵抗感は増していきます。

5.3 親から阻害されている子ども、つまり児童虐待の場合など抵抗する正当な理由がある子どもという意味ですが、親をしつこく拒絶することはあまりありません。むしろ、他の方法で虐待を受けた子どもは、虐待した親に対してかなりのアンビバレンスを抱く傾向があり、多くの子どもは自分が経験した虐待を最小限に抑えます。このような子どもたちは、虐待した親を守り、言い訳をすることが多く、親を拒絶することはあまりありません。この特徴は、親から疎外された子どもと親を阻害する子どもを区別する重要な要素です。

5.4 親の葛藤に引っ張られて、"身動きが取れなくなってしまう "子どもがいます。この場合、子どもは忠誠心の葛藤と呼ばれるものを経験します。この場合、子どもは両方の親と良好な関係を維持したいと考えているので、この家族形態は片親疎外とは異なります。この場合、子どもに両親双方がを自分を選ぶように影響を与えようとするので、子どもは内向的になり、両親との距離が離れます。時にこのような状況では、子どもはどちらかの側につくことになり、もう一方の親を拒絶するようになります。このような場合、子どもは最終的に親から疎外されるようになります。

5.5 片親から疎外された子どもは、科学的・臨床的研究によれば、その子どもに特有のいくつかの態度を現します。つまり、これらの態度（行動）は、忠誠葛藤がある子どもや片親から疎害された子どもにはあまり見られないものです。これらの顕在化は

- **誹謗中傷のキャンペーン**。親の悪口を誰かれ構わず何度も何度も言う。子供は疎外している親の否定的な態度を内面化しています。
- **不満に対する軽薄な理由付け**。疎外されている親に会いたくない理由として、非合理的または愚かな理由が挙げられる（例：ママやパパは「つまらない」）。また、疎外されている子どもは、普通の子どもよりもずっと長い間、親を恨んでいて（例えば、規則違反で懲戒処分を受けた場合）、それを拒絶の正当化の理由にします。例えば、子どもは、ママやパパがソーシャルメディアの使用を1週間停止したことを理由に「虐待している」と主張し、そのために数週間から数ヶ月間、一緒に子育ての時間を過ごすことを拒否することがあります。
- **アンビバレンスの欠如。**すべてが良い人も悪い人もいないので、良い関係には常に両価性があります。むしろ、拒絶された親がすべて悪であり、好意的な親が完璧で理想的であり、すべて善であるような分裂が見られます。
- **独立思想家現象**。子どもは、自分の意見は自分のものであり、ママやパパが自分の考えや信じることを指示したわけではないと、わざわざ人に言います。
- **借用シナリオ**。疎外している親が使ったフレーズをほぼ一語一語繰り返したり、自分では全く知らないような話や過去の出来事を説明したりします（例：赤ちゃんのときの主な養育者は誰だったか、親の離婚の理由など）。また、対象となる親を表現するのに、同年代の子どもが通常使わないような言葉を使う子どももいますが、これは疎外する親からその言葉を借りていることを示しています（例えば、4歳の子どもが、ママやパパには「怒りのコントロールクラス」が必要だと言ったり、8歳の子どもが、心理学者に「国連人権委員会第12条の声を聞かなければならない」と伝えたりしています）。
- **自動的支援／反射的支援。**子どもは、意見の相違や口論になると、疎外している親を擁護することを自動的に選択します。この自動支援は、疎外する親と融合している（別の言い方をすれば「巻き込まれている」）ために個人のアイデンティティが失われている子どもに顕著に見られることが多い。疎外する親を批判していると思われることは、子どもにとって自己を批判していると認識され、疎外する親に対する子どもの理想像に挑戦することになるからです。
- **罪悪感の欠如。**子どもは拒絶された親に対して非常に無礼で敵対的ですが、目に見える罪悪感はありません。子どもは、拒絶された親の気持ちや、自分の行動が親に与える影響を全く気にしていません。
- **反感の拡大。**子どもが標的となった親に対して抱いている否定的な感情は、義理の親、親戚、友人、さらにはペットなど、親に関連する他の人々にも広がります。これらの人々は何も悪いことをしていないにもかかわらず、子どもは拒絶された親と同じくらいの敵意を持って彼らを「憎む」のです。子どもからすると、拒絶された親がそんなに悪いのなら、その親に関わる人もみんな悪いのではないかと思ってしまうのです。

5.6 子どもの疎外感がひどくなればなるほど、子どもはより多くの行動症状を示すことがわかっています。

5.7 片親阻害を他の形態の家族紛争と区別するには、5因子モデルと呼ばれるものを使って確実に行うことができます。家族の中に次の5つの要素の証拠がある場合、子どもが疎遠になっている、あるいは忠誠葛藤を経験している可能性は低いと考えられます。

1) 子どもが不当な理由で親を拒絶したり、接触を拒んだりしている。
2) 子どもが以前、拒絶された親と肯定的な愛着や関係を持っていた
3) 拒絶された親との間に、虐待や欠陥のある子育ての経験がないこと。
4) 子どもには優先する親がいて、その親が長期にわたって親疎外行動のパターンに関与している。
5) 子どもが親疎外のいくつかの、あるいはほとんどの症状を持っている（上記5.5）。

6. 片親阻害の否定派

6.1 過去36年間に世界中で片親阻害や片親疎外行動に関する学術的、専門的な研究が数多く発表されてきた。米国バンダービルト大学医療センターのCenter for Knowledge Managementは、片親疎外に関する1,000以上の科学論文や査読付き論文、本の章などのインデックスを作成しています。また、Parental Alienation Study Group (www.PASG.info)は、一般の人が参照できるように、発表された文献の注釈付き書誌をいくつか用意している。

6.2 片親阻害を否定する多くの人々が、選択的で偏った文献調査に基づいて片親阻害に関する説明書を作成してきた。これらの文書は、片親疎外について蓄積された膨大な科学的証拠をほとんど無視しており、中にはこの問題についての誤った情報を意図的に伝えたり、この分野で活動している人々に対する人身攻撃を行っているものもある。

6.3. また、これらの論者の説明会やその他の文章は、再現性がなく、方法論的・統計的に重大な欠陥があり、結論が信頼できない少数の調査研究に焦点を当てている。例えば、ジョーン・マイヤー教授が行った研究は、片親疎外防止法反対を支持するために継続的に引用されてきたが、30以上の方法論的欠陥が確認されており、データは著者とその同僚が望む結果を得るために「増幅」（別名、操作）されたことが認められている。このような偏った研究は、その結論が信頼できないため、法律の変更を支持するために使用すべきではありません。

6.4　また、これらの論者は、父親の片親疎外の主張を認めたり、母親の虐待の主張を否定する裁判所の判決は、事実上間違っていると主張している。この偏ったジェンダー的な議題は、疎外された親である女性への向かい風であり、疎外された父親と関係があり、それによって子どもへの疎外によっても影響を受けています。

6.5 家庭内暴力や片親疎外の被害者である男性の声は、これらの論者が作成する説明会や資料にはほとんど含まれていません。むしろ、これらの個人や団体の立場が偏っていることを示す「赤い旗」は、彼らの議論の主な焦点と提示された研究が、ほとんど女性の被害者と男性の加害者に焦点を当てていることです。暴力の被害者である女性と加害者である男性にしか焦点を当てていないことです。多くの国で行われている集団ベースの研究では、男性と女性のドメスティック・バイオレンス被害に性差がないことが証明されているため、このような立場は偏っています。

6.6 反論者の文章の基本的なテーマは、父親が片親疎外の被害者であると主張する場合、その主張はすべて虚偽であり、母親にさらなる虐待を行うための手段として意図されているというものである。しかし、母親による家庭内暴力やPAの申し立ては、父親による申し立てに劣らずよくあることかもしれませんが、それが真実でない可能性も認めていません。男性が女性よりも虚偽の申し立てをしてシステムを操作する可能性が高いという証拠は全くなく、またその逆も同様で、司法の経験からも違いは見られません。裁判所は、子どもの最善の利益のために、総合的な証拠に基づいて決定を下します。

6.7 このような非包括的、非科学的、一方的な記述が、政治家や司法関係者によって、科学的に有効で決定的な研究であると受け取られることは、重大な懸念事項である。また、このような著作が公共政策や法律を変えるために利用されていることも重大な懸念事項である。

7. 結論

7.1 世界中の大多数の学術研究者、精神衛生専門家、司法関係者の間では、片親疎外は子どもの心理的虐待や家庭内虐待の一形態であり、子どもへの影響は深刻で大人になってからも続くこと、疎外された親への影響は壊滅的であること、加害者と被害者としての女性と男性の間に統計的に有意な差はないことがコンセンサスとなっています。

7.2 子どもが関わる事件の司法判断は、あらゆる種類の虐待や家族間の対立を含む家族のダイナミズムのあらゆる側面を考慮しなければならないことに疑いの余地はありません。有資格の専門家が、虐待があるかどうか、あるとすればその深刻さ、そしてそれが子どもと親の居住地や接触の取り決めにどのような影響を与えるべきかを評価する際に、裁判所を支援できるような優れたガイダンスが必要です。

7.3. 家庭内暴力法のガイダンスでは、経験に基づいた構造的な方法でこの虐待をフレーム化し、この問題に光を当てるために、より多くの実務家や公平な専門家を参加させることが不可欠です。

詳細については、添付の資料および「UK Parental Alienation Study：」
https://issuu.com/goodeggsafety/docs/pauk_master_uk_study_2020?fr=sYWVmYTMwODc 2OTk
へのリンクをご参照ください。

また、スコットランドの最近の報告書にも、親疎外に関連する重要な情報が掲載されています： https://parentalalienationuk.info/young-people-study/

また、この文書の作成に協力し、この概要の普及に賛同してくれた下記の団体にも連絡してください。

署名
団体名
　　代表者名

25.03 Interference with Child Custody	BMAN Boys Mentoring Advocacy Network	CHICAGO-UP.org	Change for Children
Children Parents United CPU	Coalition to End Domestic Violence CEDV	DOOR društvo za otroke, očetovstvo in resnico.	Društvo očetov Slovenije
Canadian Equal Parenting Council / Conseil de l'égalité parentale du Canada	Family Access Fighting for Children's Rights	Families Need Fathers® because both parents matter	FAD.lu Fathers Against Discrimination Both Parents for All Children
Find My Parent beta	Family Reunion	Fan-Pac Family Advocate Network Political Action Committee	Families United Action Network
GARI-PA Global Action for Research Integrity in Parental Alienation	GenMad	Get Court Ready Confidence, Clarity, Credibility.	Good Egg Safety
Igualdade Parental Associação Portuguesa para a Igualdade Parental e Direitos dos Filhos	International Council on Shared Parenting	ISNAF International Support Network for Alienated Families ISNAF.Info	Kids Hugs Обійми дитини Громадська організація
Kids Need Both	Lawyers for Shared Parenting L4SP	Lygiavertės Tėvystės Asociacija	Mothers for Children's Rights
National Parents Organization	Parental Alienation Awareness		PALG Parental Alienation Legislative Group
Parental Alienation UK	pasg	PASI PAS-Intervention	Recover Our Kids Putting Kids at the Heart, Not in the Middle
Sariego Abogados sariegoabogados@gmail.com Por la custodia compartida desde 1989	Shared Parenting Scotland	The Parental Alienation Foundation of South Africa	The Hero's Circle
together4changes.org	Victim to Hero	Veterans Against Parental Alienation	

BRIEF ON THE PARENTAL ALIENATION AS PART OF THE

DOMESTIC ABUSE ACT 2021

Brief Produced by:

A consortium of experts representing a large network of international organisations (see below).

August 18, 2021

1. Background

1.1 The new Domestic Abuse Act 2021 is a landmark piece of legislation intended to protect all citizens throughout England.

1.2 Importantly, the Act recognises children as victims in their own right and underlines just how critical it is to protect them from coercive control, irrespective of how that abuse manifests itself.

1.3 The Draft Guidance is issued under section 84 of the 2021 Domestic Abuse Act and has been designed to set standards and promote best practice which is critical guidance for the Central Family Court and judgements linked to children matters.

1.4 The Draft Guidance currently recognises that alienation of a child from a parent is abusive to victim parents and their children. This is a major step forward and we thank Ministers wholeheartedly for its enlightened inclusion. As follows:

Section 57:

- ‘Intentional undermining of the victim’s role as a partner, spouse or parent’.
- "Using children to control their victim, for example, threatening to take the children away or manipulating professionals to increase the risk of children being prevented from having contact with the victim or having children's social care involvement"
- "Alienating behaviours,[1] including invidious drip feeding of negative views to a child by one parent about the other parent, or any attempt by one parent to frustrate or limit the child's contact with the other parent, other than for reasons based on concern about the risk to that child"

Section 60: Emotional or Psychological Abuse

- "Turning children and friends against the victim (which may have a subsequent impact on children) including falsely and without justification telling a child that the other parent abandoned them, never loved them, or never wanted them"
- "Distorting a child's memories about the victim parent, including telling a child the other parent will pick them up/meet them, when that was not true, falsely

[1] Whilst there is no single definition of alienating behaviours (sometimes referred to as ’parental alienation’ or ‘parental alienating behaviours’), the Children and Family Courts Advisory and Support Service (CAFCASS) defines parental alienation as when a child’s resistance or hostility towards one parent is not justified and is the result of psychological manipulation by the other parent.

telling medical/school staff they have sole custody of a child so that no information is provided to the other parent, painting the other parent in a negative light to the child, including mocking their personality characteristics, job, friends, family and belittling them (including in front of the child)"

Section 78: Economic abuse

- "Deliberately forcing a victim to go to the family courts so they incur additional legal fees"

1.5 Unfortunately, both the London Victims Commissioner and Dr. Adrienne Barnett have made submissions which have distorted the reality of parental alienation and omitted mention of the considerable amount of scientific support for the problem. These distortions and omissions have misled many parliamentarians and officials as well as members of the public. In doing so, they have ignored the current evidence-based policy and practice of the primary public body with responsibility over children's' welfare, the Children and Family Court Advisory and Support Service (CAFCASS). They, as a public body, have already reviewed and accepted the evidence that alienating behaviours can seriously impact child / parent relations, which is referred to as 'Parental alienation'. The London VC and Dr Barnett are therefore directly contradicting current accepted practice.

1.6 This short briefing paper, produced by a large network of organizations representing thousands of members including international experts in many professional and scientific fields (many of them from the UK), sets out that the arguments submitted by Dr. Adrienne Barnett and the London Victims Commissioner represent a gender biased position on the topic of family violence. The opinions presented in their materials rely on misinformation about parental alienation, and their suggestions that it does not exist and/or that it has no scientific foundation and/or that it is systematically used by abusive fathers are unfounded. It is accepted that in some cases the allegations are well founded however false allegations of domestic abuse are also common. We want to see all victims protected from abuse and every child.

1.7 In this brief, we will also describe what parental alienation is and why it is a form of both domestic abuse and child psychological abuse.

2. Executive Summary

2.1 Parental alienation refers to an outcome "when a child's resistance or hostility towards one parent is not justified and is primarily the result of psychological manipulation [through a range of abusive behaviours by the other parent." The behaviours that lead to parental alienation are called "parental alienating behaviours."

2.2 Parental alienating behaviours are both child psychological abuse and domestic abuse, with the latter clearly being coercive and controlling behaviour. Fathers and mothers are just as likely to be perpetrators and victims of parental alienation, as well as other family members; the child is *always* the victim. As with other forms of abuse, parental alienation does not discriminate.

2.3 There is a wide range of alienating behaviours, which may occur at the same time as other forms of domestic abuse against a background of parental disputes and disorders, and the inability of one or both of the parents to work to restructure the family in a healthy manner after separation.

2.4 Some writings on parental alienation by detractors such as Dr. Barnett are flawed and biased, and work against recognizing and supporting those mothers, fathers, grandparents and children who are victims of parental alienation. These writings apply a gender bias to the topic of family violence that has not been supported by the majority of research on this problem.

3. Parental Alienating Behaviours

3.1 Parental alienating behaviours is a descriptive term that refers to a range of abusive behaviours that have been documented by domestic violence scholars for decades: particularly related to the use of children as a weapon against their other parent. Parental alienating behaviours serve to make a child believe their other safe and loving parent never loved them, is dangerous, and/or abandoned them.

3.2 Scholars of parental alienation have relabeled these coercively controlling behaviors as parental alienating behaviours because they are concerned with how it affects the child who is used as a weapon. In other words, parental alienating behaviours and coercively controlling behaviors are two terms for ***exactly*** the same thing.

3.3 Parental alienation affects both the children who are victims of parental alienation and the alienated parent (sometimes called the targeted or victim parent), as well as their extended family and communities.

3.4 Alienating behaviours may be unintentional, in the sense that the alienating parent is unaware of the likely results. Irrespective of whether the behaviour is deliberate or unconscious, the psychological harm to the child is the same. When identified, such behaviour must be recognized and remedied.

3.5 Both parents are responsible for the healthy development of their child, including promoting a proper loving relationship, which includes frequent regular contact between the child and both parents and their extended families. Parental alienation adversely affects the psychological development of the child in that it prevents a natural, healthy bond and relationship with a parent.

3.6 Parental alienation usually develops when parents are engaged in separation or divorce and the child is primarily influenced by a parent to reject a formerly healthy relationship with their other parent (the 'alienated parent'), without legitimate justification.

3.7. There are cases in which the abusive behaviour of one of the parents is so extreme that a complete rupture of the relationship with the child is justified, but these cases are uncommon and are a different form of family conflict referred to as "parental estrangement." Parental alienation *only* refers to rejection for unjustifiable reasons.

3.8 The impact of parental alienating behaviours on a child's psychosocial development is substantial. An alienated child, who has been convinced that one of the parents is bad, violent, or unworthy, and has not observed normative parenting, may believe that s/he him/herself is in some way unworthy, having internalized the denigration of that parent, who is part of the child. This internalization may lead to difficulty in forming relationships and bonds with future partners and/or with her/his children and has been linked to several long-term negative consequences such as anxiety, depression, suicide ideation and trust issues.

3.9 It is also important to note that within proceedings following separation in the family courts, false allegations of domestic abuse and/or parental alienation are sometimes made. Each allegation must be carefully examined by the court. Sometimes there is both psychological abuse by alienation and physical or sexual abuse in the same family (called "hybrid cases"). There is no reliable scientific evidence (as opposed to anecdotes by parents who regard court decisions as being wrong) that men or women are more likely to raise false allegations or that courts systematically prefer fathers over mothers or vice-versa, or that allegations of one kind of abuse trump allegations of abuse of other types. There are rare cases in which abuse of a child is so egregious as to prohibit any form of contact between the child and the perpetrator, but it is unconscionable that the mere allegation of abuse should preclude contact of any kind.

4. Parental Alienating Behaviours and Impact

4.1 It is relevant and beneficial to further explain 'parental alienating behaviours.' These behaviours, which are gender neutral, have been observed by mental health professionals, family law judges and lawyers, across the world for many decades. There are hundreds of articles, book chapters and other pieces of scientific descriptive, qualitative and quantitative research around the phenomena, which have appeared in peer-reviewed publications.

4.2 Parental alienating behaviours are, therefore, both:

· The observable and measurable evidence within families of the process (and therefore evidence that parental alienation exists, whichever descriptive term one prefers to use);

· The cause of the weaponizing of children and the emotional /psychological damage and harm to children, hence a form of domestic abuse/family violence/child abuse.

4.3 Children who are exposed to parental conflict on a regular basis are likely to suffer emotional and psychological harm. The fact that the parents are separated does not make the impact of harm any less concerning. It is not only overt violent and aggressive dynamics that impact negatively on child development; hostility and conflict between parents that is frequent, intense and unresolved can also have an adverse impact, creating toxic stress within the child which will manifest over time, as psychological disturbances and even psychiatric illness. This is an Adverse Childhood Event (ACE) and is a public health issue of deep importance. The longer the child is without contact with a parent, the deeper the damage; this means that allegations of interference with child-parent contact must be dealt with swiftly, in order to prevent exacerbation.

Continuing to recognize and define parental alienation as child and domestic abuse give the courts and child welfare authorities the powers needed to intervene immediately.

4.4 The range of alienating behaviours, which often includes the rejection of wider family members, especially grandparents, as well as parents, include triangulation –making the child align with one of the parents and reject the other. The abuse, of the child and of the parent and his family, consists of a pattern of behaviours, sometimes of different kinds. These are some examples:

· Creating a false narrative by telling the child falsehoods and/or distorting the child's memories about the alienated parent's behaviour;

· Constantly painting the alienated parent in a negative light to the child without foundation;
· Providing false information to third parties to harm the alienated parent;
· Telling the child the alienated parent is coming to pick them up, knowing that is not true, and making the child wait for hours for a parent who does not come;
· Pressuring the child to feel allegiance/loyalty to them, for example, telling the child they will not love them anymore if they 'choose' the alienated parent;
· Pressuring/rewarding the child to reject the alienated parent or to be defiant, violent or disruptive towards the alienated parent, and/or sanctioning the child for non-compliance with the wishes of the alienating parent;
· Coaching and coercing the children to say or write negative or false things about the alienated parent to child protection reporters and authorities;
· Treating the child like a best friend, seeking comfort from the child when feeling upset, placing the child in the middle as communicator and mediator, exposing the child to details of legal proceedings (Parentification or Adultification);
· Allowing the child to refuse contact with a parent on the basis of a trivial or perceived problem.

4.5 The impact of parental alienation on the alienated parent includes:

·The fear of no longer being allowed to have a meaningful relationship with the children and the fear of never seeing them again, leading to acute psychological and emotional harm;
·The psychological damage of unwanted rejection and through having the child turn against the parent and withhold affection;
·The social stigma of being recognized as a "rejected" parent;
·Increased levels of anxiety and depression; in the more severe cases, alienated parents have been known to take their own lives, or attempt to do so;
·The financial burden of having to seek continual legal redress to maintain contact and to prove that parental alienation is taking place;
·Poor performance at work or studies, and disruption of personal life and relationships, arising from ambiguous loss.

5. Parental Alienation and Other Forms of Family Conflict

5.1 There can be several reasons why a child would resist contact with a parent. The nature of this resistance, and other factors in the family dynamic, help to determine the reason for the resistance.

5.2 Children who have been moderately to severely alienated from a parent frequently, persistently, and consistently reject them and refuse to communicate with or see them. In milder cases, this resistance is most often seen when the child is with their alienating parent, and less so when in the care of the alienated parent. Over time, and as parental alienation becomes more severe, the child's resistance increases.

5.3 Children who have been estranged from a parent, meaning they have a justified reason for resistance such as in cases of child abuse, do not often reject the parent persistently, consistently and frequently. Rather, children who have been abused in other ways tend to have considerable ambivalence about their abusive parent and many children minimize the abuse they experienced. These children often protect and make excuses for their abusive parent – they are not likely to reject them. This feature is an important differentiator of alienated and estranged children.

5.4 Some children are pulled into their parental conflicts and get "stuck in the middle." In this case, the child experiences what is called a loyalty conflict. This family dynamic is different than parental alienation because in this case, the child wants to maintain a positive relationship with both parents. The child is in a difficult situation because both parents try to influence the child to pick their "side," which can make the child withdrawn and less close to *both* parents. Sometimes, the child will eventually pick a side in this conflict and reject their other parent in order to stop being in the middle. In such cases, the child eventually becomes alienated from a parent.

5.5 Children who have been alienated from a parent manifest several behaviours that scientific and clinical research has found to be unique for them, meaning that these behaviors are not as likely to be found among children who are in a loyalty conflict or who have been estranged. These manifestations are:

- **Campaign of denigration:** The child repeatedly complains about the parent over and over again to anyone who will listen. The child has internalised the negative attitude of the alienating parent towards the alienated parent.
- **Frivolous rationalization for the complaint:** Irrational or silly reason given for not wanting to see the rejected parent (e.g., mum or dad is "boring"). Children who are alienated will also hold a grudge against a parent far longer than most children (e.g., if they were disciplined for a rule violation) and use it as justification for their rejection. For example, a child may claim mum or dad is "abusive" because they suspended social media use for a week and therefore refuse to spend parenting time with them for weeks or months.
- **Lack of ambivalence:** Good relationships always have ambivalence because no person is all good or all bad. Alienated children do not typically show signs of this: rather, they show splitting such that the rejected parent is all bad and evil, and the preferred parent is perfect, idealised, and all good.
- **Independent thinker phenomenon:** The child goes out of their way to tell people that their opinions are their own and that their mum or dad did not tell them to think or believe what they do.
- **Borrowed scenarios:** The child will repeat phrases used by the alienating parent nearly word for word or describe stories or past events that they would have had no independent knowledge of (e.g., who the primary caregiver was as a baby, reasons for their parent's divorce). Some children will also use language to describe the targeted parent that would not normally be used by a child their age, indicating that they have borrowed the phrases from the alienating parent (e.g., a 4 year old saying that mum or dad needs "anger management classes or an 8 year old who informed a psychologist that her "voice under UNCRC Article 12 must be heard").
- **Automatic support/reflexive support:** The child will automatically choose to defend the alienating parent in any disagreement or argument. This automatic support is often most evident among children whose personal identities are lost due to being **fused** (alternatively referred to as "enmeshed") with the alienating parent, as any perceived criticism of the alienating parent is perceived by the child as being a criticism of the self, and it challenges the child's idealisation on the alienating parent.
- **Absence of guilt:** The child is very disrespectful and hostile towards the rejected parent with no visible qualms or guilt. The child shows no concern for the feelings of the rejected parent and the impact of their behaviours on them.
- **Spread of animosity:** The negative feelings the child has for the targeted parent spreads to other people associated with them: step-parents, extended family, friends, even pets. Even though these individuals have done nothing wrong, the children 'hate' them with the same amount of hostility as the rejected parent. From the child's

perspective, if the rejected parent is so bad, then everyone associated with them must be bad as well.

5.6 The more severely alienated a child becomes, the more behavioural manifestations the child has been found to express.

5.7 The differentiation of parental alienation from other forms family conflict can be done reliably using what is referred to as the Five-Factor Model. When there is evidence of the following five factors in the family, then it is unlikely that the child is estranged or experiencing a loyalty conflict:

1) The child rejects a parent or resists contact for unjustified reasons;
2) The child previously had a positive attachment/relationship with the rejected parent;
3) The child does not have a history of abuse or deficient parenting with the rejected parent;
4) The child has a preferred parent who has engaged in patterns of parent alienating behaviours over time; and
5) The child has several or most of the manifestations of parental alienation (5.5 above),

6. Detractors of Parental Alienation

6.1 There has been a large body of published academic and professional research on parental alienation and parental alienating behaviours from around the world over the last 36 years. The Center for Knowledge Management at Vanderbilt University Medical Center in the USA has indexed over one thousand scientific and peer-reviewed papers, book chapters and other resources pertaining to parental alienation. The Parental Alienation Study Group (www.PASG.info) also has several annotated bibliographies of the published literature for public reference.

6.2 Numerous detractors of parental alienation have created briefings about parental alienation that are based on selective and biased literature reviews. These documents have largely ignored the vast amount of scientific evidence that has accumulated about parental alienation, and some have deliberately conveyed misinformation about the problem or made ad hominem attacks against those who have been working in the field.

6.3. The briefings and other writings of these detractors have also focused on a small number of research studies that have not been replicated and have demonstrated serious methodologic and statistical flaws, making their conclusions unreliable. For example, one study conducted by Professor Joan Meier that has been continuously cited in support of anti-parental alienation legislation has over 30 identified methodological flaws, and the data was admitted by the author and her colleagues to have been “amplified” (aka manipulated) to get the results that they desired. Biased studies such as this should not be used to support any change of legislation because their conclusions are not trustworthy.

6.4 These detractors have also claimed that court decisions accepting fathers' claims of parental alienation or reject mothers' allegations of abuse are ipso facto wrong. This biased, gendered agenda also acts against women who are alienated parents, and those who are related to the alienated father and are thereby also affected by the alienation of the child.

6.5 The voices of male victims of domestic abuse and parental alienation are rarely included in the briefings and materials created by these detractors. Rather, a “red flag” that the position of these individuals and groups is biased is that the primary focus of their arguments and the

research presented focus almost exclusively on female victims and male perpetrators of violence. This position is biased because population based research in many countries demonstrates that there are not gender differences in male and female domestic violence victimization.

6.6 The underlying theme of the writings of detractors is that when fathers claim they are victims of parental alienation, their claims are all mendacious and are intended as a means of carrying out further abuse on the mother. But the writings do not even accept the possibility that allegations by a mother of domestic abuse, or of PA, which may be no less common than allegations by fathers, may be untrue. There is absolutely no evidence that men are more likely than women to manipulate the system by making false allegations, or vice-versa, and judicial experience shows no differences. Courts make their decisions on the basis of the totality of evidence, in the best interests of the child.

6.7 It is a matter of serious concern if such non-inclusive, unscientific, one-sided writings are taken by the political and the justice community to be scientifically valid and conclusive research. It is also of serious concern that such writings are being used to change public policies and laws.

7. Conclusion

7.1 The consensus among the vast majority of academic researchers, practitioners in the mental health professions, and judicial officers around the world, is that parental alienation is a form of child psychological abuse and of domestic abuse; that its effects on children are severe and last into adulthood; that its effects on alienated parents are devastating; and that there are no statistically significant differences between women and men as perpetrators and victims.

7.2 There can be no doubt that judicial decisions in cases involving children must take account of all aspects of the family dynamic, including all types of abuse and family conflict. There is a need for good guidance so that qualified professionals can assist the court in assessing whether there is abuse, and if so, its severity and how it should affect child-parent residence and contact arrangements.

7.3. It is imperative that the Guidance for the Domestic Abuse Act frame this abuse in an empirically based, structured way, and to involve more practitioners and unbiased experts to shine a light on this issue.

For further information, please see the attached documents and this link to the "UK Parental Alienation Study:"
https://issuu.com/goodeggsafety/docs/pauk_master_uk_study_2020?fr=sYWVmYTMwODc2OTk

There is also important information related to parental alienation in a recent report from Scotland: https://parentalalienationuk.info/young-people-study/

You can also contact any of the organizations below who have helped to prepare this document and have endorsed the dissemination of this brief.

Signed,